

年度 2009 学期 前期	曜日・校時	月 1	必修選択	選択	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	経済と経営・明治期と高度成長期における地域経済の発展 (Economics and Business・Regional economic development in the Meiji and high-growth period)				
対象年次 1・2年次	講義形態	講義	教室		
対象学生(クラス等)	全学部		科目分類 人文社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:谷村賢治 /Eメールアドレス:tanimura@nagasaki-u.ac.jp /研究室:環境科学部本館 352 室 /TEL:2719 /オフィスアワー:月13時-15時					
担当教員(オムニバス科目等)	谷村賢治				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 現代日本の経済社会の底流と基層を探る、これを授業の狙いとする。 経済社会の動きがいま、大きくて早い。従ってその変化に、目はとかく向きがちだ。無理もないが、“足下”にも目をやってみようではないか。じつは激変期こそ、こうした作業が必要ではあるまいか。そこで、現代の日本経済社会のルーツを探ると、二つの”基盤”から成り立っていることが知れる。ひとつは、遡ること文化・文政期。そこを起点とする近代経済成長をもたらした”市場システム”のいう底流がそれで、ことに明治維新を経て、その動きは加速していった。 また、それまでの社会のパラダイムを一変するような経済社会が高度経済成長によって築かれた、といわれている。いわゆる大衆消費社会の誕生であるが、この新たな社会基盤の上に、現在のわれわれの経済社会は存在する。もうひとつの基層とは、このような社会基盤をさす。これらの“岩盤”にアタックしてみよう！ 授業方法: プリント、ビデオ等 授業到達目標: 社会、経済を見る目(いわゆる環境知)構築の一助にでもなればと考えています。					
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要):本講義の前半は、明治・大正期における地域経済社会の有様、展開ぶりを見ていきたい。主な対象地域は広島と、長崎。 本講義の後半は、高度成長期における大衆消費社会の誕生、展開の様子を地域社会に当たって検討してみる。観察対象地域は長崎と、広島。 第1回 序: いまなぜ明治期、高度成長期なのか 第2回 工業化時代と地域経済 その1: 明治という時代 第3回 その2: 明治・大正期の地域経済の発展(概要) 第4回 その3: 工業化時代の地域工業化(1) 近代工業の発展 第5回 その4: 工業化時代の地域工業化(2) 在来工業の発展 第6回 その5: 地域工業化を支えた仕組み(1) 地域農業の発展(概要) 第7回 その6: 地域工業化を支えた仕組み(2) 地域農業の発展(稲作成長分析) 第8回 その7: 地域工業化を支えた仕組み(3) 工業化時代の農家経済 第9回 その8: 地域工業化を支えた仕組み(4) 工業化時代の地域商業 第10回 その9: 工業化時代の地域商業の発展 第11回 人口成長と地域経済発展 第12回 高度成長期と地域経済(概要) 第13回 地域産業の展開 第14回 地域経済社会と生活の変容 第15回 総括(試験含む)					
キーワード	工業化時代、近代工業、在来工業、地域農業、地域商業、高度経済成長				
教科書・教材・参考書	西川俊作『日本経済の成長史』、西川俊作編『日本経済史 4 産業化の時代 上』、『日本経済史 5 産業化の時代 下』 斎藤修『賃金と労働と生活水準 日本経済史における18-20世紀』				
成績評価の方法・基準等	学修状況(50%)と小テスト(50%)				
受講要件(履修条件)	別になし				
本科目の位置づけ/学習・教育目標					
準備学習等)	別になし				